

地学協働

18

2024年3月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課



バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1

第3回北海道地学協働活動推進会議

令和6年3月22日（金）、第3回北海道地学協働活動推進会議をオンラインで開催しました。

北海道地学協働活動推進会議は、北海道地学協働アドバイザーや全道各地で地学協働に取り組んでいる構成員が参画し、道教委の施策に対する意見や各地域の地域学校協働活動の状況などについて情報を共有するものです。今回は、令和5年度の地学協働について道教委からの報告を行ったあと、2つのブレイクアウトルームに分かれ、各地域の地域学校協働活動の状況について協議を行いました。

(1) 報告「令和5年度の地学協働について」

道教委から、北海道地学協働アワード2023や地域と学校の連携推進協議会の実施など、事業の成果についての報告や次年度の方向性について説明を行いました。

第1回目の会議の中で、構成員の方から「地学協働の取組を推進するためには、コーディネーターの配置が重要」といった意見をいただいていた。そのことが助力となり、来年度の新規事業「北海道MA+CHプロジェクト」において、全道14管内の高校にコーディネーターを配置することになりました。

「北海道MA+CHプロジェクト」については、次年度の広報誌で詳しくお伝えします。



(2) グループ協議

テーマを「各地域の地学協働の状況について」として、2つのブレイクアウトルームに分かれました。その中で、コロナ禍で活動が止まっている状況を打開するためには熟議やワークショップなどを行い、活動の中心となる人を探ることが重要であることや、地域学校協働活動は子どもへの支援が大人同士の学び合いにつながり、ひいては当事者意識を高めるというプロセスが実践から明らかになったことなど、様々な協議を行いました。



令和3年度から始めました「地学協働活動推進実証事業（北海道CLASSプロジェクト）」が3年間の実証を終え、成果や課題を「成果報告書」としてまとめました。8つの研究指定校の着実な取組は、多くの示唆を与えてくれました。

地学協働により、これからの社会を担っていく高校生が地域社会で地域の大人と対話しながら、主体的に探究することで、地域社会への愛着、社会参画意識・社会貢献意識、自己有用感・自己肯定感など内面的な変容にも効果があることがわかりました。

地学協働による変容



地学協働は、生徒・教員・地域にそれぞれの学びがあり、好影響をもたらすことから、地域づくりにも大きな効果を発揮します。「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」が実現します。

地学協働活性化サイクル

活動 → 活動成果・変容 → 活性化

地学協働により、成果が見えるようになると、「もっとやりたい」という、次の活動へのモチベーションにつながります。

活動の様子を広報誌等で住民に周知することで、多くの人々が学校や活動を理解することにつながり、活動が活性化していきます。

高校生と地域の大人が「まち」を元気にします。

北海道CLASSプロジェクトの成果報告書は、道教委社会教育課のHP上に掲載しています。成果報告書のほかに、「資料編」「リーフレット」もありますので、地学協働の推進に御活用ください。

社会教育課HPのURL：<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/>



コミュニティ・スクールと一体的推進を図る 地域学校協働本部を整備しませんか？

「地域学校協働本部」とは、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、**緩やかなネットワーク**を形成することにより、**地域学校協働活動を推進する体制**のことを指します。

地域と学校の連携協働の体制は、様々であるため、**地域学校協働本部について法律上の規定はありませんが**、社会教育法の第5条及び第6条の規定では、「**教育委員会が地域学校協働活動の機会を提供するに当たって、地域住民等と学校の連携協力体制の整備**」が求められております。

「地域学校協働本部」の整備にあたっては、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」を推進し、「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことが重要です。

＜地域学校協働本部では以下の3つの要素を持つことが重要です＞

- 1 **コーディネート機能**
- 2 **多様な活動**（より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施）
- 3 **継続的な活動**（地域学校協働活動の継続的・安定的実施）

＜地域学校協働本部の整備状況は？＞

令和5年12月発行の本誌（No15）において、コミュニティ・スクールの設置状況の速報が、全国で導入の平均が74.0%であるのに対し、道では83.7%と全国の平均を上回っているという結果を掲載しました。しかし、本道における地域学校協働本部の学校カバー率は、下表のとおり全国よりも下回っています。

（文部科学省：令和5年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査）

	本部数	幼稚園	小学校	中学校	義務教育 学校	中等教育学校	高等学校	特別支援学校	学校カバー率
全国	12,870	510		19,812		585		237	61.0%
北海道 (札幌市含む)	313	9		846		11		0	47.3%

＜地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働した「地域学校協働活動」とは？＞

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い**地域住民等の参画**を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

例えば、**子どもたちが地域に出て行って「郷土学習」**を行ったり、**地域住民とともに地域課題を解決**したり、地域の行事に参画して**地域づくりに関わる**といった活動があげられます。詳しくは下記を御参照ください。

参考「学校と地域でつくる学びの未来」<https://manabi-mirai.mext.go.jp/torikumi/chiiki-gakko/kyodo.html>

＜釧路市地域学校協働本部の事例＞



釧路市地域学校協働本部では、地域学校協働活動推進員12名が委嘱されており、市内の7校の小学校で活動を行っています。地域学校協働活動推進員やボランティアは、学校と協働した地域行事の準備や学校図書館の運営などを行っているほか、花壇の整備や校外学習の際の子どもの引率など、日常的に学校の教育活動に関わっています。

令和5年12月22日（金）、釧路市地域学校協働本部がボランティア研修会を実施し、その様子を動画で紹介しています。ボランティアの方へのインタビューでは、「はじめはどんなことをやるのかわかりませんでしたが、活動を数回行うことでやりがいが出てきました。」「私は、仕事していますが、負担のない範囲で楽しんで活動をしています。」などといった当事者意識を高めながら意欲的に活動している話を聞くことができました。

当課YouTubeチャンネルで配信しておりますので、ぜひ御視聴ください。



令和4年度から、道教委では、学校図書館を担当する職員等に必要な専門的知識や技能を身に付ける講義や演習を実施し、学校司書の養成や資質向上を図るとともに、学校全体で学校図書館の計画的な整備や利活用の促進を図る体制を構築できるよう、標記研修を実施しています。

今年度は、54名の方が受講されましたので、講習の様子についてお伝えします。

1 講義内容



・令和5年度は、

- I 学校図書館基礎講習(6時間)
- II 図書館資料・情報の管理と活用講習(4時間)
- III 学校図書館担当職員が知っておきたい学校教育(4時間)
- IV 学校図書館サービス力向上講習(6時間)
- V 学習指導・読書指導力向上講習(8時間)

の5講座28講義で実施しました。

2 主な講師

大学教授や全国学校図書館協会学校図書館スーパーバイザー等を講師に招聘し、講義を実施しています。(令和5年度実績)

- ・放送大学 客員教授 堀川 照代 氏
- ・専修大学 教授 野口 武悟 氏
- ・全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー 野村 邦重 氏
- ・学校図書館スーパーバイザー 佐藤 敬子 氏 ほか



3 受講者から(アンケート記述より)

- ・勤務経験が浅いので、基礎的な事を学べた事は、とても勉強になりました。(学校司書)
- ・自分の知らないたくさんの新しい知識を知ることができ、大変新鮮で、有意義な講習でした。(学校事務職員)
- ・今回の講習を受講することで、学校図書館司書という職務により自信をもつことができました。(市町村職員)
- ・今回雄講習を受けさせていただいて、学校図書館の重要性、やらなければならない事の多さを改めて感じました。(PTA)



4 次年度の開催について

令和6年度も本講習を計画しております。詳細につきましては、年度当初に改めてご案内をさせていただきますので、ぜひ多くの学校図書館担当者の皆様に受講いただければ幸いです。

また、北海道教育委員会では、道立高校への学校図書館担当職員(学校司書)の配置率の増加を目指し、取組を進めています。

道立高校の事務職員の皆様で、**次年度、学校図書館を担当される方は、業務等の対応が難しい面もあるかとは存じますが、学校長や事務長と御相談の上、ぜひ受講いただきますよう、お願いいたします。**

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

(公益社団法人 北海道観光振興機構) のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>